# ごあいさつ　（事業の概況）

初夏の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申しあげます。平素は変わらぬご支援を賜り有り難く厚くお礼を申しあげます。

さて、平成２９年度の国内経済は、海外経済の堅調な景気回復等による好調な輸出に加え、アベノミクスの浸透により出遅れ感のあった個人消費も徐々に改善が見られるようになり、年度を通して底堅く推移しました。

しかし、年度終盤には、トランプ米国大統領の国内支持者向けの輸入品への関税引き上げ等の政策により世界的な貿易戦争への懸念が台頭し、北朝鮮の地政学リスクも継続する中、今後の日本経済に与える不透明感が増大しているのが現状です。

また、景気回復の恩恵は主に大都市圏や大企業に集中し、当地域の経済動向は、潜在的な人口減少・少子高齢化等の問題を抱え、一方で業種により人手不足が生じるなど、中小零細企業はより一層厳しい環境に置かれております。

このような状況下において、当金庫の業績につきましては、預金は期末残高213,225百万円となり前年度期末比3,821百万円の増加となりました。科目別では、定期性預金が119,833百万円、要払性預金が93,391百万円、人格別では、個人預金が174,191百万円、法人等の預金が39,034百万円となりました。

貸出金は期末残高71,595百万円となり前年度期末比808百万円の減少となりました。科目別では割引手形が742百万円、手形貸付が4,510百万円、証書貸付が60,576百万円、当座貸越が5,766百万円、人格別では、個人への貸出金が25,982百万円、法人等への貸出金が45,613百万円となりました。その結果、預貸率は33.57%となりました。

有価証券は期末残高82,712百万円となり、前年度期末比7,441百万円の増加となりました。

損益状況につきましては、業務純益150百万円、経常利益169百万円、当期純利益133百万円となりました。

平成29年度は当金庫の『しんきんスクラム強化3か年計画』の最終年度にあたり、この3か年計画では「支援力・営業基盤の強化」「経営力・内部態勢の強化」「組織力・人材力の強化」「つなぐ力・総合力の強化」を基本方針とし、信用金庫の独自性・特性を活かしながら、地域に必要とされ、地域に愛され、お客様や地域の成長・発展にお役に立てる金融機関を目指してまいりました。

引続き、お客様や地域に信頼される金融機関として、コンプライアンスを経営の最重要課題と位置付け、その上で、中小企業や個人のお客様の抱える諸問題をきめ細やかに把握し、コンサルティング機能を十分に発揮すると共に経営改善や事業再生支援に注力していくことが当金庫の使命であり課題であると認識しております。

そのため、コンサルティング機能を発揮できる能力の育成・強化や、行政、外部機関や専門家などとの連携を強化し、一層の支援体制の整備に努め、地域の持続的発展に貢献すべく役職員一丸となって業務に邁進する所存でございます。

結びに皆様方の一層のご発展、ご隆昌を心からお祈り申しあげるとともに、新年度も一層のご愛顧を賜りますよう切にお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

平成30年7月

理事長　笠原　和博